



柞原八幡宮 修理区分図

### ○柞原八幡宮の修理について

柞原八幡宮は大分市中心部から西側の山中にひっそりと鎮座しています。山内は県の保護樹林に指定されており、樹齢3000年を越すといわれる天然記念物の大クスをはじめ、樹齢の高い広葉樹の残る森となっています。重要文化財に指定された建物は附を含め12棟で、一番古い申殿（宝暦2（1752）年）から南大門（明治3（1870）年）まであり、建築年代の異なる建物で構成されています。

事業は大きく2期にわかれており、今回の第一期事業は附も含めた重要文化財12棟の内、瑞籬内側の5棟を対象としています。重要文化財の保存修理として、本殿、東宝殿、西宝殿を解体修理、宝蔵を半解体修理、八王子社を屋根葺替・部分修理と建物の破損状況に応じて修理区分をしています。今回の修理に合わせて耐震診断を予定しており、診断の結果によって必要に応じ補強を行う予定です。

### ○保存修理について

重要文化財建造物の修理工事は保存修理と言います。保存修理は「根本修理」と「維持管理修理」に分けられます。「根本修理」とは（全）解体または半解体（軸組は残す）修理とあって、建物の部材を解体し、柱の傾きや不陸を修正、破損した部材の取り替え、補修を行い、組立直す修理をいいます。根本修理はだいたい150年周期を想定しておりますが、天災や虫害、その他の事情によりその限りではありません。「維持管理修理」とは部分修理をいい、屋根の葺き替えや、壁の補修、塗装の塗り直しなど、破損した部分のみを修理します。

いずれの修理の時も、解体が伴うときは1つ1つの部材に番付けを付け、元の位置に組立られるようにします。「解体」というより「分解」という方が分かり易いかもしれません。

また、解体と同時に部材ひとつひとつを調査し、その部材の取り付いた時代、材種、加工、仕様、破損状況、痕跡などを明らかにし、当初の建物の形や現状に至るまでの改造などを調べ、建物のある時代の形を明らかにし、復元の根拠とします。あわせて、史料調査（古写真や古文書等）を行い、復元根拠の補足資料とします。

[p1-2]令和元年（2019）5月 [p3-4] 令和元年（2019）11月 [p5-6]令和2年(2020)2月

宗教法人 柞原八幡宮

公益財団法人 文化財建造物保存技術協会 柞原八幡宮設計監理事務所